

令和6年度 第4回山ノ内町立小学校適正規模適正配置等審議会 次第

日 時 令和6年9月11日(水)
午後5時00分～午後6時30分
場 所 山ノ内町役場 401会議室

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 報告事項

(1) 小学校及び保育園における保護者懇談会の開催結果について

4. 会議事項

(1) 小中一貫校について

(2) 質疑・意見交換等

5. その他

6. 閉 会

山ノ内町立小学校適正規模適正配置等審議会委員名簿

任期：令和6年6月13日～令和7年6月12日

団体等	職 名	氏 名	備 考
東小PTA	会長	宮澤 昭雄	
南小PTA	会長	高相 慎吾	
西小PTA	会長	中島 学	
志賀高原保育園	保護者会長	高相 大作	
かえで保育園	保護者会長	宮崎 未希	
ほなみ保育園	保護者会長	小泉 一真	
よませ保育園	保護者会長	杉戸 香奈	
すがかわ保育園	保護者会長	丸山恵美子	
区長会	会長	畔上 三行	
区長会	副会長	芦原喜久司	
区長会	副会長	内田 健一	
区長会	副会長	下田 清人	
東小学校	校長	湯本 文洋	
南小学校	校長	中村まゆみ	
西小学校	校長	竹内 由紀	
山ノ内中学校	校長	山口 近	
子ども会育成連絡協議会	会長	鈴木 隆夫	
児童委員代表	主任児童委員	佐藤 重子	
議会議員代表	社会文教常任委員会委員長	高田 佳久	
学識経験者	元小学校長	原 隆文	
公募委員		西澤 誠一	
公募委員		佐藤 匡則	
公募委員		田中 晴男	
公募委員		湯本 市蔵	

(事務局)

教育次長兼こども未来課長	望月 弘樹	
こども未来課学校統合準備係長	山本 敏幸	
こども未来課学校統合準備係	畔上 俊樹	

小学校統合に係る保護者との懇談会開催結果

1 懇談会開催状況

- 期 間 令和6年8月27日～令和6年9月9日
- 回 数 8回（小学校：3回、保育園：5回）
- 参加者 小学校：63名（東小：15名、南小：28名、西小：21名）
保育園：55名（志賀高原：7名、かえで：9名、ほなみ：21名、
よませ：10名、すがかわ：8名）
- 内 容 小学校統合について、統合に向けた検討の経過、統合に向けての課題、教育委員会における段階的な統合案などを説明し、小学校及び保育園の保護者から小学校統合に係る意見を聴取した。

2 懇談会での主な意見等

(1) 小学校統合について

- ・中学校敷地での統合に決まっていたのに、どうして西小学校となったのか。他の小学校でも良いと思うが経過を教えてください。
- ・中学校敷地で小中一貫校を目指していくと決まっていたのになぜ西小での統合案も検討されてきたのか知りたい。
- ・子どもたちにいろいろな選択肢を増やしてあげたいため、すぐにでも統合してほしいと思っている。
- ・東小が一番児童数が多いのになぜ西小に統合のするのかわからない。
- ・令和9年4月までに統合するとなったのかわからない。子どもたちは統合を必要としていない。
- ・統合せずに今のままで良いのではないか。統合するから問題が生じる。なぜ統合する必要があるのか教えてください。統合は大人の都合とを感じる。
- ・統合の議論が長くなっても構わないので、3校を一緒に1校統合できる案で統合を考えてほしい。
- ・少人数であっても困っていない。急いで統合するより中身をじっくり検討したうえで統合を進めてほしい。
- ・令和9年4月を目標とした理由がわからない。
- ・最終的に1校統合するのであれば、急いで統合するよりもじっくり議論したうえで3校を1校に統合した方がよい。
- ・統合場所の議論ばかりで、中身の議論がされていないと感じる。
- ・西小で統合した場合、西部地区に中学校をもっていくには時間がかかるのか。
- ・西小での3校統合の場合、人数が多く課題があるとすれば、急いで統合するのではなく、時間をかけて検討しもう少し人数が減ってくるなかで統合してはどうか。その際には課題も少なくなってくると思う。
- ・当初計画案は民意を踏まえての計画であることからその計画で進めてほしい。
- ・令和9年4月の統合は時間的にも間に合わないと思う。

- ・統合を急ぐ理由は何か。統合することが目的になっている気がする。統合することによる教育の質や価値がどのように上がるのかといったビジョンが見えない。
- ・西小と北小が統合され、E S D教育ではそれぞれの地域の伝統文化、自然学習を行っている。統合することで今まで行ってきたことができなくなったり、先生の負担が増えたりメリットがないのではないか。

(2) 段階的な統合について

- ・段階的な統合では1校1学年1学級になるだけ。それならば一番広い東小で一旦、3小を統合し、その後、小中一貫校を目指した統合を進めればよい。
- ・段階的な統合により学校を選んで子どもたちを学ばせるようなことは望んでいない。大半の人は納得できない。
- ・最終的に3校を統合するのであれば、段階的でなく一度に統合したほうが良い。学校が別れる、いつまで統合の話が続くのかといった心配もしないで済む。
- ・段階的統合はとても嫌だ。子どもたちは何年も一緒に生活してきている中で、学校を分離することは納得できない。
- ・子どもたちが分かれることに反対。学校選択制も少し引っかかる。スクールバスが西小に行くとなれば東小に行く児童がいるとは思えない。
- ・令和9年に一度統合し、6年後に更に統合するでは児童の負担が相当大きいと思う。
- ・令和9年に段階的統合しても1学年1学級で教育環境の改善が図られないのでは。それならば3校を1校に統合した方がよい。
- ・段階的統合は反対。子どもの負担も大きいし保護者も負担となる。何回でもいいので懇談会を設け検討してほしい。
- ・段階的な統合については反対。統合するなら1回で1校統合してほしい。
- ・段階的な統合は人数的な問題なのか。それ以外の理由で段階的に統合する理由はあるのか。
- ・段階的な統合により子どもたちは相当なストレスを感じる。最終的に1校統合を目指すのであれば最初から1校統合した方がよい。1校統合するまでに時間がかかるのであれば、それは仕方ないと思う。
- ・じっくり議論したうえで3校を1校にした方がよいと思うが、早急に統合が必要であれば段階的でも仕方がない。2回も統合するのは経費が無駄と感じる。
- ・統合は早いほうが良いが、2回に分けて統合するより1回で統合したほうが良い
- ・段階的統合は児童や保護者に負担がかかる。余裕をもって3校を1校に統合した方がよい。
- ・南部地区でも話があったように西小も少人数だからと困っていることはない。先生が児童に細かく対応できており、すごく良いと感じている。複式学級では困るが、まだそこまで人数が減っておらず、統合の議論がまだ早いと感じる。
- ・地区に同い年の子どもがおらず早く統合してほしい。たくさんの友達を作って育ててほしいと感じる。

(3) 小中一貫校について

- ・小中一貫校が良いが時間がかかるため、まずは3小を統合し1学年2学級にしたうえで、先生の配置も副担任制を導入してほしい。
- ・小中一貫校にすることで、中学生との活動場所の共有により活動面積が減少することが懸念される。また、信濃町などでは早期に小中一貫校を実践していることからメリット、デメリットを把握し教えてほしい。
- ・小中一貫校の設置を目指しているが、小中一貫校のメリットがよくわからない。理想としている学校などがあれば教えてほしい。
- ・県外出身者で小中併設の一貫校を卒業したがメリットを感じたことがなかった。小中一貫校のメリットを教えてほしい。
- ・小中一貫校で異学年交流をしている事例があり魅力を感じた。
- ・小学校が中学校と統合した際、中学生が騒がしいと思わないか。
- ・小学生が中学生の活動に憧れたり、中学生が年下の子どもたちに慕われることがうれしかったりするので小中一貫校はよいと思う。
- ・県外出身だが小学生の時、通学途中に中学校があり、荒れていたからかもしれないが中学生を怖いと感じた。そうした思いもあるので小中一貫校は気が進まない。将来、更に児童数が減った際に小中一貫校にしてはどうか。
- ・統合は理解できるが、小中一貫校にこだわる理由が知りたい。統合に合わせて小中一貫を乗せて急いでいるようにしか見えない。
- ・一貫校でなくてもコミュニケーションをとる行事などを増やせば連携は可能。体育施設の共有などは教育環境の低下につながりデメリットも多い。プールを解体し、校舎を建設してまで小中一貫校にする必要があるのか疑問。もう少し時間をかけて検討してほしい。

(4) 統合場所について

- ・親が働く場所の近くに子どもが通う学校があったほうが災害など緊急時の対応が可能のため、将来、商業地域を目指す東部（東小）に学校があったほうが良い。
- ・あくまで中学校敷地での1校統合に賛成。
- ・中学校は上の子がお世話になり愛着もあるが、西部地区は通り過ぎるだけで愛着がない。そう思う人が多いと思うので中学校での統合が1番良いと思う。
- ・統合場所は西小よりも中学校が良い。
- ・町長が変わり西小の話が出てきたが、なぜ西小に拘るのか分からない。
- ・西小を統合場所とし中学校を併設した場合、結局は中学校に小学校を併設した場合と同等の費用が掛かることが想定されるが、そこまで考えているのか。
- ・中学校での統合を検討した際、図書館下の役場職員の駐車場の活用は検討したのか。
- ・西小で3校統合すると狭いと思うが、グラウンドに校舎を作る考えはあるのか。
- ・広さ的な面で、中学校敷地と西小ではどちらが良いのか。
- ・中学校敷地での統合で小中一貫校のイメージができていた。中学校は町の真ん中で通学も便利。グラウンドやプールなどの課題がクリアできれば中学校で問題ないと思う。

- ・志賀高原の子どもたちのことを考えると、バスを乗り換えて通学することはよくないと感じる。また、段階的統合で学校を選択させるもよくないため、中学校での統合が望ましいと思う。

(5) 通学について

- ・志賀高原の児童が、西小に通学する場合、長電バスを利用すると乗り換えなどが生じ、負担が大きいためスクールバスを運行してほしい。
- ・東小では児童の輸送が難しいとのことだが、児童の輸送の課題はどこで統合しても同じでないか。
- ・西小となった場合、バス通学になると思うがどのように考えているのか知りたい。
- ・湯田中の街中は道路も狭く歩道もない。統合の際には児童が安全に通える対策をしてほしい。
- ・志賀高原では今も早い時間にバスがなかったり、保護者も早朝から仕事があると送っていけない。子どもたちが通わせやすい環境の整備をお願いしたい。
- ・町長がなぜ西小に拘るのか分からない。西小に通学させる方法をどのように考えているのか。

(6) 学校選択制について

- ・学校選択制は新1年生が対象か。2年生以降も対象となるのか。
- ・学校選択制については、子どもや保護者に丸投げで納得できない。
- ・学校選択制については、よく考えたうえで実施してほしい。

(7) 教育内容について

- ・どのような学校にしていけば教育環境が向上するといった未来が明るいビジョンを示していただければ、統合についても判断できると思う。
- ・少人数の方がきめ細やかに児童を見てもらえるのか。
- ・小中一貫校にした方が教育カリキュラムなどを動かしやすいのか。
- ・小学校と中学校のグラウンドは別々にあった方がよいと思う。
- ・E S D教育で自然に特化した先生を要望すれば、採用していただけるのか。
- ・英語や数学については専科の先生がおり、子どもからすごく分かりやすいと聞いている。今後も専科の先生を増やしてほしい。
- ・県外出身だが山ノ内町の自然はすごく魅力である。子どもたちが自然と触れ合う教育に力をいれてほしい。山ノ内町の自然を生かしたカリキュラムを取り入れてほしい。
- ・眼鏡をかけている児童が増えているので、昔あった眼球運動などの取り組みも継続して行ってほしい。
- ・心のケアの問題では、先生方が一生懸命取り組んでいただいているが、中学校では不登校児童も多いと聞いている。小学校から心のケアは大事であるので対策を検討してほしい。
- ・県外から山ノ内町に戻ってきたが、恵まれた自然環境に触れながら子どもが育つことはとても良いことだと感じる。そこをもっと評価し目を向けていただきたい。

(8) その他

- ・まちづくり構想で、東部地区を観光エリア、西部地区を住宅・文教エリアにすることだが、本当に実現可能か疑問である。
- ・西部エリアに宅地を造成しても魅力がなければ移住者は来ない。商業エリアが活性化すれば職場に近い方に人が集まるのではないか。
- ・まちづくりビジョンは絵に描いた餅であり、今いる子どもたちへ何を第一に考えていくかが重要である。今いる子どもたちをこれからどうしていくか考えることが未来につながると思う。
- ・懇談会の周知期間が短く出られない人もいるので、開催方法や周知方法をもう少し考えてほしい。
- ・昨年の懇談会で特別支援教育に力を入れていくとの話に違和感があり、どうしていきたいのか質問したが一切の返答がない。そうした状況で、何を基準に賛成・反対すればよいか分からない。
- ・3小学校の児童や保護者を集めてイベントなどを開催することで、心の負担の軽減が図られるのではないか。
- ・まちづくりビジョンの中に南部地区のビジョンがないことから、南部地区の活用方針を示してほしい。
- ・南部地区に住んでいるが地域が好きで、急に統合して西小に行けと言われても拒否反応が起こる。
- ・東小はハザードマップで、危険箇所に指定されているがどうなっているか。
- ・急傾斜工事してまで、東小を活用するといった考えが分からない。
- ・保護者懇談会に来られなかった、時間がなく話が出来なかった人も多くいるため、別に意見を言える機会を作ってほしい。
- ・統合することのメリットは書かれているが、デメリットがないため比較できない。
- ・懇談会で集約した意見をどのように意思決定していくのか教えてほしい。
- ・統廃合の方針は決定しているものなのか。それとも覆る余地はあるのか。決定しているとしたらどのような理由で決定しているのか。
- ・意見交換会はすごく重要と思い参加したが、意見を聞いて終わるものなのか。それに対するフィードバックはあるのか。
- ・南小の児童だけ負担になるのは納得いかない。
- ・懇談会に来られなかった保護者からも意見を聞いてほしい。意見を言いたい場合、どこに連絡すればよいか。
- ・西小で統合するとなった際に、住民との合意形成のプロセスはどうなるのか。段階的統合が反対という意見が多かった場合、意見は反映されるのか。
- ・小学校統合の議論は平成26年頃から始まり、現在まですごく時間がかかっているが他市町村でも同様に時間がかかっているのか。
- ・小学校統合にかかる最終的なプロセス、決定権はどうなるのか。
- ・町の議会などは関係してくるのか。

- ・これから色々決めていくにしても時間がかかる。町長が変われば方針が変わるかもしれない。その間に、子どもたちは小学校を卒業していくことから、ある程度期限を設けて進めていった方がよいのではないか。
- ・財政的な課題を解決しなければ、教育委員会がいくら理想を言っても絵に描いた餅となる。そのため、財政面を考慮した内容で検討を進めた方がよいのではないか。
- ・町長が観光に費用を掛ける考えであれば観光事業者として観光施設などの整備に費用を掛けていただきたい。学校も既存施設があるので有効活用した方がよい。
- ・ホテルの外国人スタッフなどが家族を呼んで一緒に住んでいるが、山ノ内町の学校だと入りづらく中野市に居住してしまう。そうした家族のケアや就学しやすい環境の整備も検討していただきたい。
- ・他市町村における統合などの状況について知りたい。
- ・統合し廃校となる学校の先生はどういった扱いになるのか。
- ・他の保護者懇談会の状況や意見などを教えていただきたい。
- ・段階的な統合と3校1校統合では財政的な面で、どの程度の差が生じるか。
- ・町長の考えはあるが、民意をどのように考えていくのか。
- ・他の懇談会ではどのような意見が多かったのか教えてほしい。
- ・将来、町全体で1学年35人以下になるか分かれば教えてほしい。
- ・中学校での統合となった際、工事の騒音が授業に影響がでないか心配である。
- ・駐車場の不足がいつも課題となる。統合にあたっては駐車場の課題の解決も考えてほしい。
- ・人口が減っているという課題があるなかで、増やしていく対策も必要。魅力ある教育を行って学校があることで人口が増えている事例もあることから魅力ある教育を第一に考え統合の検討を進めてほしい。

小中一貫校について

1 小中一貫校が必要とされる背景

(1) 進学時の接続をスムーズにする

小学校と中学校の教育を一貫することで教員同士の連携が取りやすくなり、学習指導や生活指導が統一されるため「小学校と中学校で方針が違う」といった混乱を避けることにつながる。また、児童・生徒の課題を共有できるため、一人ひとりの課題をフォローしやすくなる。

(2) 児童・生徒の身体的発達が早まっている

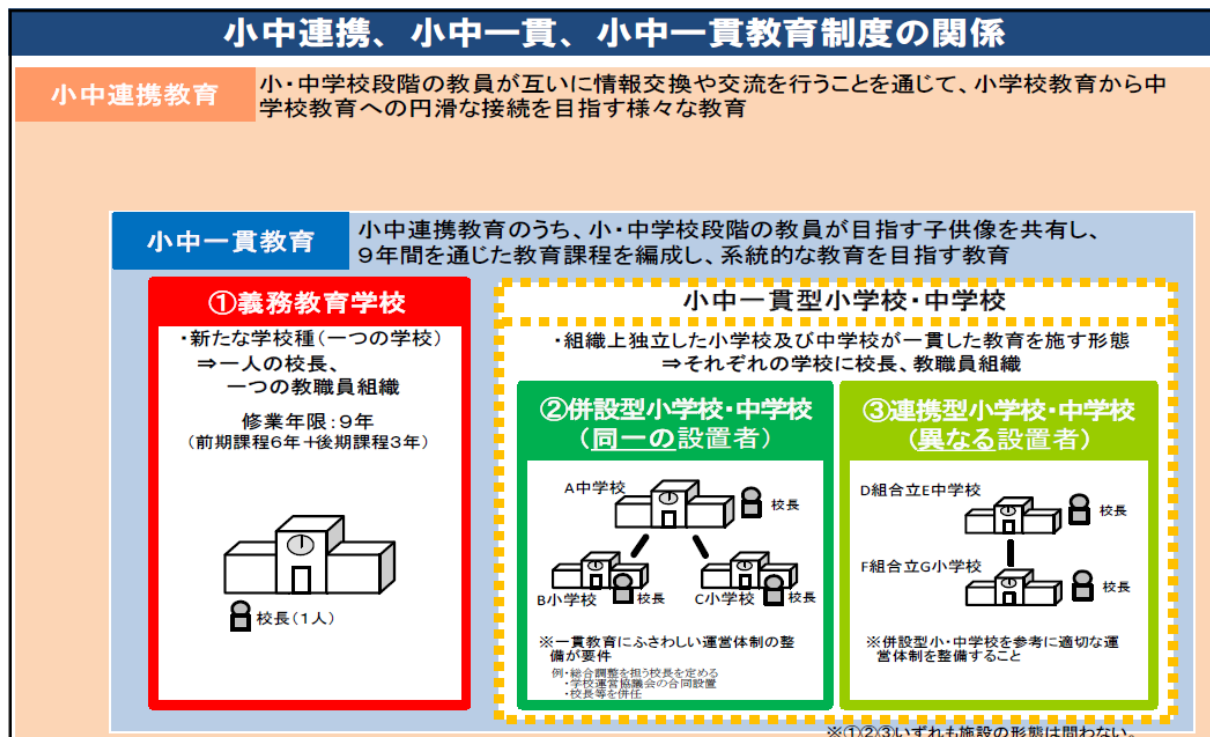
児童・生徒の身体的発達が早まっている現代に合わせて、ふさわしい教育や生活指導を行うことも重要な課題であり、小中一貫教育にすることで身体と心のバランスが崩れやすい年ごろの子どもたちをサポートしやすくなる。

(3) 「中1ギャップ」を埋める

小学校から中学校に上がり、環境が大きく変化することで「新しい環境で学習に集中できない」「対人関係が複雑になった」などで悩み、つまり生徒もおり、環境に大きな変化がなく、小学生時代の苦手な科目などをフォローしやすい小中一貫教育は、中1ギャップを埋めるための施策でもある。

2 小中一貫校とは

小学校6年間と中学校3年間はいずれも義務教育であり、9年間の義務教育を一貫して行うのが「小中一貫校」と呼ばれる学校となる。さらに小中一貫校は次の3種類に分けられる。



義務教育学校（※小学校と中学校が1つの学校）

- 1つの教員組織・1人の校長先生で成り立っている学校
 - 学年の区分は1年生から9年生で、系統性を確保した教育課程を編成し実施する。
 - 小学校に相当する6年間は前期課程、中学校に相当する3年間は後期課程となり、前期課程を修了すると小学校を卒業したことになる。
 - 教員は原則として、小中の両免許状を併有している。
（※当分の間は小学校免許状で前期課程、中学校免許状で後期課程の指導が可能）
 - 小中一貫に必要な独自教科の設定、指導内容の入替えや移行も可能。
- 【県内事例】
信濃小中学校（信濃町）、八坂小中学校（大田市）、根羽学園（根羽村）、
栄村義務教育学校（名称未定、栄村、R8年度より（予定））等

併設型小中一貫校（※同一設置者の学校）

- 独立した小学校、中学校が一貫した教育を行う形態の学校で、施設設置者が同一。
 - 教員組織は小学校と中学校のそれぞれにあり、校長先生も両方にいる。
 - 9年間の系統性、体系性に配慮がなされている教育課程を編成し実施する。
 - 教員は、それぞれ所属する学校種の免許状を有している。
 - 小中一貫に必要な独自教科の設定、指導内容の入替えや移行も可能。
- 【県内事例】
佐久穂小中学校（佐久穂町）、永明小中学校（茅野市）、上諏訪小中学校（諏訪市）
野沢温泉学園（野沢温泉村）、鬼無里小中学校（長野市） 等

3 小中一貫校のメリット・デメリット

小中一貫校の設置にあたっては、様々なメリットやデメリットが考えられることから、以下のとおり想定されるメリット・デメリットを整理する。

メリット

（1）進学時の環境変化が少ない

中学校に進学する際、環境が大きく変わることがなく、子どもたちに対する負担も少ないため、学習や部活動に集中しやすく、精神的に落ち着いた状態で学校に通える。

（2）異学年交流による精神的な発達

小学1年生から中学3年生が異学年交流を行うことで、上級生から下級生に対する思いやりの心、上級生・下級生の規範意識、下級生から上級生に対する憧れの気持ちなどの醸成が図られ、また異学年交流によって精神的な発達が促進され、また社会性が養われることも期待される。

（3）学習や生活面のフォローが受けられる

9年間の教育を一貫することで、中学生になっても小学生のころの苦手科目や生活面での課題などをフォローできる。また、一体型の学校では馴染みのある先生が近くにいることも心強い。

(4) 充実した設備・備品が使える

通常、小学校・中学校ではそれぞれの学校で設備や備品をそろえるが、小中一貫校では予算を合わせて、質の高い設備や備品を導入することも可能。

(5) 独自教科等の設置による特色ある教育が可能（教育課程特例の活用）

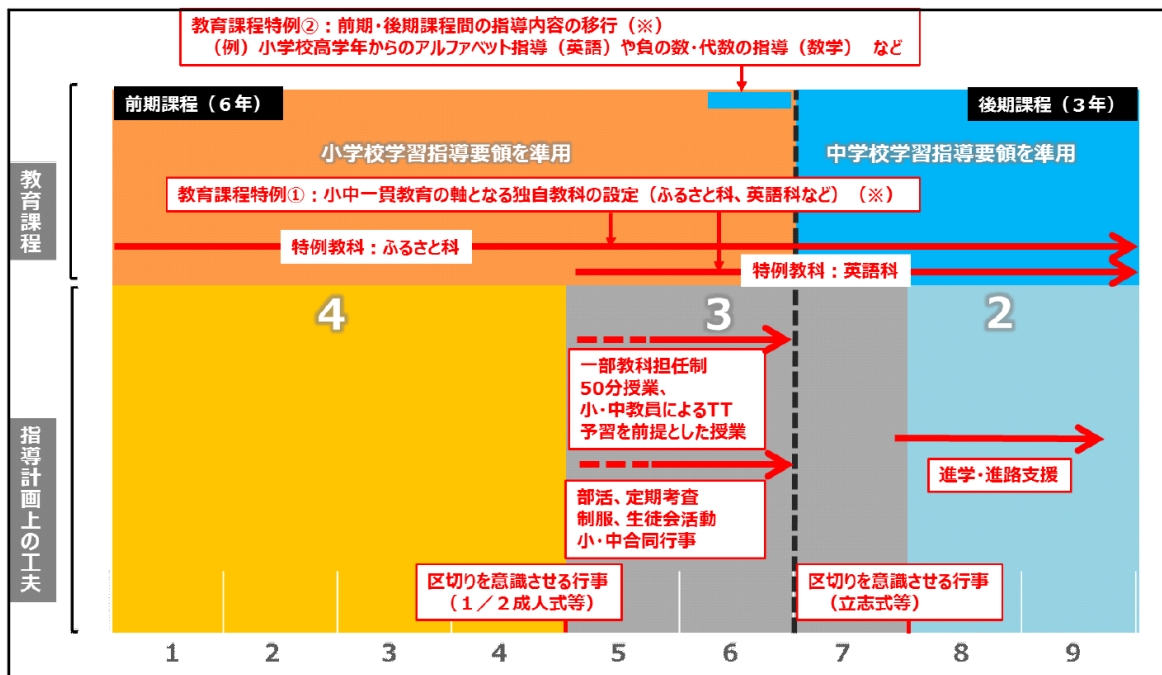
小学校と中学校において一貫した独自教科等の設置等を、文部科学省への申請等無しに設置者の判断で行える。ふるさと教育など独自教科を9年間一貫して学ぶことが可能。

(6) 柔軟な学年段階の区切りを設定することが容易になる

子供たちの発達の早期化への対応や中学校段階への移行に際して、子供が体験する段差を緩和する観点から、4-3-2や5-4など、学年段階の区切りを柔軟に設置することが可能。

(7) 学校業務の効率化、専門スタッフの活用

これまで小中学校別々で行っていた事務を1人の校長のマネジメント下で教職員が一体的に行うなど、小中の学校事務の共同実施が促進され、校務の効率化が可能。通常中学校のみに配置されることが多いスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門スタッフが小中一貫して受け持つことで、子供への継続的な相談を行うことが期待できる。



(5) (6) のイメージ図

町では、小・中学校においてESD教育が積極的に実施されており、また外国語教育の拡充も想定するなか、9年間のカリキュラムの中で【特例教科】として「ふるさと科」や「英語科」などを設置することが可能となる。

デメリット

(1) 対人関係の変化が少ない

小中一貫校の場合、小学校から中学校までほぼ同じメンバーで過ごすこととなり、新たな人間関係を作る機会は少なくなる。また1度人間関係が拗れると後々まで影響することも考えられる。

(2) 小学校高学年がリーダーシップを発揮しにくい

小学校では5年生や6年生が学校のリーダーを務めるが、小中一貫校では中学生がリードすることが多くなり、小学生時代に下級生をフォローするという経験が少なくなる。